

ふたかみ NEWS プチトマト

トピック
なかまの作品紹介
詳細4面

なかま交流会



2月13日きょうされんの河内ブロックで仲間交流会を行いました。今年は八尾のひばり作業所に5施設が集まり、施設紹介やゲームを行いました。その様子をzoomでハピバールでも共有し、最後はみんなで「マツケンサンバ」を踊って楽しい時間を過ごしました。(大西)



社会福祉法人ふたかみ福祉会

〒583-0841 大阪府羽曳野市駒ヶ谷105番地1 TEL 072-959-3221 FAX 072-959-3264

Email: futakami@kagayaku-inochi.com <https://kagayaku-inochi.com/company/>

発行責任者: 石本悦二 編集責任者: 関口奈緒美



はびきの園作品紹介
「奥長君子さん」



「カンガルーの親子」

笑顔がとっても素敵で、少し照れ屋の奥長さん。ハニカミながらお話されました。奥長さんが絵画を始めたきっかけは、ハピバールのなかまの素敵な作品に出会ったから。色鉛筆や絵の具・パステルなどを使って、とてもカラフルな作品を生み出されます。今後は「世界遺産」の作品を描いていきたいと話されています！ご期待ください♪(田邊朋)



「ノルウェーブリックケン」



「きりん」

「春の古着市」

3月7日ふたかみ福祉会後援会主催「春の古着市」を開催いたしました。当日は天気に恵まれ無事に開催できた事を嬉しく思います。今回も多くのお客様に来ていただき大盛況に終わりました。売り上げに関しましては、ふたかみ福祉会を通じて法人事業所に通われる方の活動や事業所運営に充てさせていただきます。また、署名、募金のご協力ありがとうございました。次回の古着市は秋ごろを予定しております。よろしくお祈りします。(阪本)



■後援会入会及び更新の方々(敬称略)

2026年2月

〈個人〉

* 田中美希・・・5口 * 成澤修・・・3口 * 関口耕一郎/関口奈緒美・・・2口

* 瀧澤咲季/関口汐音/関口蒼彩/島田ひろみ/西沢君子・・・1口

〈団体〉 * 陶芸クラブ・・・1口

■ ボランティア・・・垣内秀夫様

■ アルミ缶回収(2月分)・・・800kg

ありがとうございます

◆2026年度ふたかみ福祉会後援会入会、更新のお願い◆

皆様の引き続き日中支援事業所や相談支援へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

【個人会費:1口2,000円 団体会費:1口10,000円】 郵便振替口座:00940-5-325894

個人会費については6月の総会で、2025年度からの会費の改定をしています。

まちまるしえ vol.20

【開催日時】

2026年4月12日(日)10:00~15:00

【開催場所】 峰塚公園

(羽曳野市軽里2丁目)

※小雨決行(荒天中止)

きょうされん 第49次
国会議員署名
募金運動
全国キャンペーン
2025年12月～2026年4月

障害があっても安心して
生活できる社会に

障害のある人たちの生活を
支えつくりの力を
集め、暮らしに活かしたい
わたしたちも応援しています

署名者権利規約
地域のすずみに

署名者: 関口奈緒美 関口耕一郎 田中美希 瀧澤咲季 関口汐音 関口蒼彩 島田ひろみ 西沢君子

cafeハピバール

4月の予定

定休日 毎週水曜/日曜

休み 4日(土)・18日(土)
25日(土)

★Instagram★
[cafe-hapibar.com](https://www.instagram.com/cafe-hapibar.com)

【お問い合わせ先】072-958-3232

「新年度（2026年度）に向けて 30周年を迎え新たな一歩へ」

今年度のスタートは明るい話題で始まろうと思っていました。しかし世界情勢は大国の軍事行動によって緊迫した様相になっていきます。日本国内を見ても突然宣言された衆議院解散総選挙の結果を受け与党は改憲や軍事費の増強等に今にも動き出すように見えます。社会福祉関係予算が抑えられそうな気がしますが、数年前に言われた「新しい戦前」が身に迫って感じられます。平和であればこそ、この日常がある事を忘れずにこれからの社会情勢をしっかりと見て行きましょう。さて私たちふたかみ福祉会としては、今年度で社会福祉法人となって30周年となります。無認可作業所として1986年から取り組みをはじめ1996年に社会福祉法人としてスタートしました。ここまでの歩みの中には数多くの方々に支えられ、助けられ、共に歩いてきた道程があります。其の事に感謝しつつこれからの10年、20年と歩みを止めることなく進んでいきたいと思えます。

周年のイベントはチャリティコンサートや福祉祭りのな取り組み、記念誌の発行を計画し取りこんでいきます。

もう一つの大きな取り組みとしては「きょうされん第49回全国大会IN大阪えがおのまつり」が9月23日・24日大阪国際会議場（グランキューブ大阪）にて開催されます。大阪では29年振りの全国大会です。いま強い日本が声高に言われ、福祉行政が抑圧されそうな時期です。この大会成功は福祉問題を考えもたえる一つの契機になると思います。法人としても人材、資金等の支援を目指して多くの団体、個人の方々に協力をいただいています。より一層の支援を頂けるように今後も取り組みを進めます。今年度も仲間たち、家族、職員、そして関わっていただける全ての方々と共に歩んでいきましょう。

これからもよろしくお願いいたします。

（理事長 八木昭二）

「働く実践 学びの場に参加して」

2月27日、28日の2日間にわたり愛知県で行われたきょうされん「働く実践 学びの場」に参加してきました。

最初に情勢報告を聞き、一般就労を希望している人が就職する際にヘルパーを利用したいとなると高額の利用料がかかる事を知り、現制度が障害のある人の「働きたい」という気持ちの壁になっていると感じ、制度の見直しが必要ではないかと感じました。

次に2つの実践報告をお聞きしました。1つ目は岐阜県にある「いびき福祉会」の報告を聞きました。いびき福祉会が実施している「tabita便」が出来たのはコロナ禍で商品の売れ行きが悪くなり、商品の製造を維持したいと考えた時にクラウドファンディングに挑戦。その時に返礼品でお菓子の注文を受けたけれども、大量生産がむずかしく、無理のないペースで製造したいと考えた時に「分けて送る」ことができる「tabita便」が生まれたと説明がありました。

顧客の確保はクラウドファンディングで支援いただいたお客様に案内を出して了承いただいた方に購入してもらい、定期購入してもらっていると聞きました。コロナ禍で仕事がない状況が続いた中で様々な事に挑戦をした結果、新しい形での関わりが増えたことを知り、様々な視点から仕事を探していく大切さを学びました。



2つ目は滋賀県にある「蒲生野福祉会プリズム」の洋菓子屋「エクレシ」での実践報告をお聞きしました。エクレシが出来た経緯や、こういった思いを持って支援をしているのかを聞き、私が一番印象に残った言葉が「福祉の冠をつけない」という言葉で終わらせるのではなく、どうすればできるのかを考

えていくのが私たち職員の仕事であることを改めて考える機会となりました。

最後に各事業所の商品紹介がありました。愛知県にある施設でトルト食品を販売していると聞き、ハピバールのカレーもトルトに出来るのでは？とヒントを頂くことが出来ました。

2日目の分科会では「障害の重い人の働く実践について話そう！」に参加しました。いびき福祉会の職員から話を聞き、複数の仲間の事例をもとに説明を聞きました。かりんとう工房で働いていた仲間が高齢と共に班移動し、仕事が変わったが、変更先でも仲間に応じた仕事を提供することが大切だというお話を聞きしました。また、いびき福祉会では「福祉専攻科」と呼ばれる高校卒業から作業所に働くまでに数年かけて働くとは学ぶ機会を作っているという説明がありました。

2日間研修に参加して、他の施設での取り組みを学ぶことが出来ました。ハピバールでも出来るのでは？とアイデアを頂けたので、今後学んだ事を他の職員と共有して「働く」をより深めていきたいと思えました。（波多江ひ）

『きょうされん学びの場 分科会に参加して』

分科会では「デザインやWEBの活用について」に参加させてもらいました。はじめにグループワークを行い、各事業所が抱える課題や工夫を出し合いました。パッケージの工夫や宣伝方法、ネット販売の展開、商品のターゲット設定など、どの事業所も商品づくりと発信に悩みながら模索していることが分かりました。それぞれの現場での取り組みを聞く中で、新たな視点や気づきも多く得ることができました。同じように考え、挑戦している方々がいることにも心強さを感じました。

講師は岐阜県にある、いびき福祉会のブランドマネージャー山本友美さん。実践に基づいた具体的なお話は大変刺激的でした。社内で発信内容を募り、広報担当がホームページやインスタグラムにこまめに投稿し、活動の様子や商品の魅力をタイムリーに伝えていくとのことでした。ムービーの活用が再生数の向上につながるといってお話を聞き、視覚的に伝える工夫の

『施設長にお願い！』



年に一度、なかまにアンケートをとり、はびきの園を良くするための要望をまとめ、自治会役員3名が代表で施設長に交渉します。『トイレのドアが壊れている』『他の班の人と昼ご飯を食べる機会がほしい』など様々な要望が寄せられました。施設長からは『どこがどんな風に壊れているか具体的に調べてきてください』『園で食べるのですか？外へ食べに行くのですか？』などの質問がありました。役員は詳しい状況を調べに行き、再度施設長に伝えます。一方ですぐに対応できるものに関して、『掃除用具が壊れていると掃除ができないので、それは買いたしましょう』とその場で返事がもらえる要望もありました。なかまそれぞれが、はびきの園を良くするために考えることで、自分達の大切な居場所を作り上げる意識を持つことが出来る機会となっています。（本間）

